

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
分担研究報告書

がん・生殖医療連携のネットワーク構築に関する研究

研究分担者 鈴木 直 聖マリアンナ医科大学 医学部 教授

研究要旨

3年間の間に、厚労科研清水班において、「がん・生殖医療連携のネットワーク構築に関する研究」を主に「がん・生殖医療に関わる公的助成金制度導入地域における、公的助成金制度の実情に関する研究」に焦点を絞って研究を進めてきた。令和3年度は、3年間の研究を論文にまとめる等手法にて総括を行なった。

A. 研究目的

平成29年に施行されたがん研究振興財団がんサバイバーシップ研究助成金成果「がん治療後に子供をもつ可能性を残す 思春期・若年成人がん患者に対するがん・生殖医療に要する時間および経済的負担に関する実態調査」（若年性乳がんサポートコミュニティ Pink Ring 御船美絵、聖路加国際大学 北野敦子）によると、AYA 世代がん患者 493 名を対象とした調査の結果、AYA 世代がん患者はがん治療費に加え妊孕性温存に要する費用が経済的負担になっている事実が明らかにされた。具体的には、妊孕性温存を実施した 17% の患者の半数が 50 万円以上妊孕性温存療法の費用として支払っており、約 70% ががん診断時の年収が 400 万円未満と回答する中で、がん治療費に加え妊孕性温存に要する費用が経済的負担となっているとの報告を行っている。そして、21% の患者が、妊孕性温存療法が高額であったため、妊孕性温存をあきらめたと報告している。

そこで、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「思春期・若年成人（AYA）世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究」（研究代表者：清水千佳子、研究分担者：鈴木直、研究協力者：洞下由記）において全国自治体を対象とした実態調査を行なった結果、令和2年10月の段階で、がん・生殖医療に関わる公的助成金制度が構築されている自治体が 25 地域（21 府県+4 市）となっていた。

本研究では、がん・生殖医療に関わる公的助成金制度導入地域における公的助成金制度の実情を明らかにし、47 都道府県並びに国からの支援に繋がる政策提言を目的とした研究を進めた。

B. 研究方法

本年度は、令和3年4月から、小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法に係る国に

よる経済的支援に関する事業が研究事業として開始されたことから、3年間の研究を総括し論文を作成し投稿する。

C. 研究結果

地方自治体レベルの取り組みでは、自治体ごとに施策の優先順位が異なるため、がん・生殖医療に関わる費用助成の実施やその条件、助成額に格差が生じうる。したがって国内のすべての患者に均等な機会を与えるという意味では、特定不妊治療費助成金同様に国が支援を行うことが望ましいと考える。研究成果は、日本がん・生殖医療学会誌（2021；4(1)：39-45）に掲載された。

D. 考察

令和3年4月から、小児・AYA 世代がん患者等に対する妊孕性温存療法に係る国による経済的支援に関する事業が研究事業として開始された。本研究班の研究活動の成果（提言）が本研究事業開始の一端に繋がったと考察する。

E. 結論

国の研究事業の一環として、がん・生殖医療における妊孕性温存療法に対する公的助成金制度が開始するに至ったが、引き続きがん・生殖医療における患者の意思決定支援に携わる人材育成等の課題解決に向けた研究継続が必要であると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

洞下由記，清水千佳子，古井辰郎，高井泰，堀部敬三，鈴木直. 47 都道府県におけるがん・生殖医療に関わる公的助成金制度構築に関する実態調査—小児・AYA 世代がん患者における生殖機能温

存医療支援体制の必要性について－. 日本がん・生殖医療学会誌. 2021; 4(1): 39-45.

2. 学会発表

鈴木直. 小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状－社会的、臨床的ならびに基礎的課題, 第 25 回日本生殖内分泌学会学術集会, 2020 年 12 月.

原田賢, 洞下由記, 岩端秀之, 鈴木由妃, 澤田紫乃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 当院における自己免疫疾患患者の妊孕性温存外来受診者の内訳, 第 11 回日本がん・生殖医療学会学術集会, 2021 年 2 月.

鈴木直. AYA がん関連研究の現状と今後－さらなる前進を目指して, 第 3 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2021 年 3 月.

秋山恭子, 洞下由記, 高江正道, 杉下陽堂, 神蔵奈々, 濱口賀代, 古川尚美, 吉岡千恵子, 山田陽子, 山本志奈子, 津川浩一郎, 鈴木直. 当院における乳がん患者の妊孕性温存に対する取り組み, 第 3 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2021 年 3 月.

洞下由記, 岩端秀之, 出田莉央, 松山夏美, 中嶋真理子, 古山紗也子, 鈴木由妃, 澤田紫乃, 杉下陽堂, 高江正道, 鈴木直. 妊孕性温存目的の精子・卵子・胚・卵巣組織凍結におけるその後の利用率と妊娠成績に関する検討, 第 3 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会, 2021 年 3 月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

なし